

大田市ふるさと情報誌

VOL.30

2015.6

どが谷かな 大田市です!!

【作品（油絵）】「完成まであと…」

大田高等学校3年 橋本 愛香（はしもと まなか）
美術室から、大田高校の新校舎がどんどん完成に近づいていくのが見えます。旧校舎のあった場所への思いや、新校舎への期待を感じる作品です。

「一宮酒造有限公司」

新商品開発に燃える父娘

浅野社長と杜氏を^{とうじ}目指す理可さんの挑戦

歴史ある酒蔵を継いだ社長の思い

創業、明治29年。100年以上の歴史がある一宮酒造(有)は、大田市街の中心部に位置している。

三瓶山の麓から湧き出る清らかな水を使って仕込まれた日本酒は、愛好家からの人気も高い。

20年前に会社を継いだ浅野社長は、ある課題に悩まされる。

「こんなに美味しい日本酒があるのに、日本酒離れが止まらない」

「特に若い人に日本酒のことを知ってもらいたい」との強い思いが浅野社長の行動力の根底にある。

日本酒ファンを増やす取

組みとして始めたのが新商品の開発。

以降、いくつもの新商品を生み出し続けてきた。



▶新商品の構想を語る浅野社長

カフェ・キャリアと のコラボレーション

市内大森町にある日本で唯一のキャリアコーヒー輸入代理店「株キャリア・インターナショナル・ジヤパン」。こちらで取り扱っ

ているカフェ・キャリア社のコーヒーはイタリア・モデナで100年以上愛され続け、魔法のコーヒーとされている。

同じ100年以上の歴史を持つ一宮酒造(有)とのコラボにより、両社が培ってきた伝統と技術に支えられた商品が完成した。

商品名は「アレリカ」。カフェ・キャリア本社のアレッサンドラ・キャリア社長と、一宮酒造(有)の若手後継者として杜氏を目指す浅野理可(りか)さんの、二人の名前から命名されたエスプレッソコーヒーリキュールだ。

1杯ずつ丁寧に抽出したエスプレッソを贅沢に使用した「アレリカ」は最高級の香りとマイルドな飲み口が特徴。ストレートやロッ

◀新商品「アレリカ」を紹介する浅野理可さん



クで香りを楽しんだり、ミルク割りでまるやかな味を楽しむこともできる。隠れたお勧めの飲み方はホット。エスプレッソの芳醇な香りを存分に堪能することができる。

女性のファンを 増やしたい

日本酒「雪香・YUKIKAI」は、特に女性ファンを増やしたいとの思いから生まれた。アルコール度数を低く抑え、飲みやすさを徹底的

に追求。独自の瓶内2次発酵技術により、まるやかな甘さとすっきりとした酸味を持ち、2013国際味覚審査機構において優秀味覚賞に選ばれた。

販売を開始して3年。現在では多くの女性ファンを集め、製造商品すべてを完売した年もあるほどだ。

既に、浅野社長は次なる新商品の開発に取り組んでいる。「常に次のこと、新しいこと。経営者に休む暇はありません」。

お客様に喜んでもらえるものづくりを常に追い求めている。



▲「雪香・YUKIKAI」

未来の杜氏が 目指すもの

そんな社長を支える存在が娘の理可さん。

東京の大学で酒造りを学んだ後、実家へ戻り、杜氏を目指して日々酒造りに向き合っている。女性で杜氏を目指しているのは全国でもほんの一握りだ。

2年の酒造りを経験し今年が3年目。「父が日本酒ファンを増やす取組みをしてくれている。だから、私は日本酒の好きな人を選んでもらえような日本酒を造りたい」と思いを語る。先輩杜氏の手ほどきを受けながら、他の酒蔵の情報収集も欠かさない。「自分の中で一番いいと思う造り方は何かを常に考えている」という。

一人前の杜氏を目指して、理可さんは、日々奮闘中だ。

※杜氏：酒造りに従事する職人。また職人の最高責任者。



▲一宮酒造有限会社（店舗）の前で銘酒「石見銀山」を手にする浅野社長と娘の理可さん

父と娘の二人三脚

「辞めたいと思ったことは何度もある。周りの友達と同じように遊びに行くことが出来なかったことが辛かった」、そう話すのは理可さん。

仕込みの時期になると泊まり込みでの作業が続く。若い理可さんにとって自分の時間が持てないことは辛

いことだった。

「麴は生き物なので、付きっきりでないといけない。蔵に入れば周りは杜氏さんをはじめ、年配の方ばかり。そんな中で寂しい想いもしたと思う。これから先輩杜氏さんから沢山学んで成長して欲しい」と娘の夢を一番近くで見守る厳しくも優しい父。父と娘、一宮酒造(有)の挑戦は続く。

新生

一般社団法人大田市観光協会

会長 谷本隆臣さん

これまで任意団体であった大田市観光協会が、市の観光振興の「中核的推進機能」を目指し、組織の強化と新しい取組みを推し進めるため、平成27年4月に、一般社団法人として新たなスタートを切りました。

旅行ニーズが多様化し、団体旅行から個人旅行へとその形態もシフトしている今日、各観光地には地域ならではの魅力や新しさ、楽しさを備えた豊富な観光メニューが求められています。

そうしたニーズの変化に対応するには、地域独自の自然や歴史文化、景観などの地域資源を活かした旅行商品が求められています。

今、各地域内の幅広い分野の人々が連携し、つくり上げる受け入れ地主導型の『着地型観光』への取組みが必要です。

一般社団法人大田市観光協会は、そうした観光地づくりを地域ぐるみで進め、観光入込客の増加、宿泊促進、観光消費の拡大を目指していきます。



▶「(一社)観光協会」設立総会の様子

石見銀山遺跡の魅力を

より多くの人の人へ！

越本修美さん・信視さん



▲石見銀山をガイドする修美さん(右)と信視さん(龍源寺間歩入口にて)

観光ガイドとして

「石見銀山に訪れた人の喜ぶ顔が見たい」と、修美さんと信視さんは言います。

修美さんは石見銀山の良さをたくさんの人に知ってもらいたいと平成24年から観光ガイドをしています。

修美さんが観光ガイドとして気をつけていることは、観光ガイドを『してあげる』ではなく、『させてもらう』と語ります。

「観光ガイドを『させてもらう』と語ります。『させてもらう』という心構えを持つことで、常に謙虚さを忘れずに全力で取り組むことができます。一人でも多くの人に石見銀山の魅力を伝えたい」と言います。

現在は夫婦で石見銀山の観光ガイドを行い、石見銀山のPR活動に忙しい毎日を送っています。

観光ガイドをする際に心掛けていることは相手の要望や状況に応じて、観光コースを考えることです。

例えば高齢の方であれば階段の少ない場所を重点的に見てまわるコースを提案したり、パワースポットに興味がありそうな方には修美さんおすすめの佐毘売山神社を案内したりします。

先日、佐毘売山神社を案内したかたは「何か力を感じた。石見銀山にこんな場所があることを知らなかった。佐毘売山神社に連れてきてもらえてよかった」とうれしそうな様子だったとのこと。

「観光ガイドをしていて一番うれしいことは、案内した方々から感謝の言葉をもらうこと」と二人は言います。

また「訪れた人が喜んで、生き生きとして帰られる姿

が私たちにとって一番の励みになります」とうれしそうに話します。



▲佐毘売山神社

空気のよい場所を求めて移住

越本さん夫妻は平成23年6月に大田市に移住しました。

夫妻が移住した理由は、信視さんの体調不良がきっかけで、空気のよい環境で過ごしたいと考えたからです。

インターネット等で情報収集をし、縁があり「おおだ定住支援センター」(定住推進室内)に相談し、大田市内の空き家をいくつか見学することになりました。

た。その中で五十猛町の空き家に出会いました。畑があり、海が近いこともポイントとなり、大田市を移住先に選びました。

「大田市のよいところは地域との関わりが密接なところ」と修美さんは言います。

地域の受入体制もあり、移住当初から、自治会の行事に積極的に参加する中で、人脈も増えました。

畑で作った野菜をおすそわけすると、様々なものをいただくこともありました。

そして地域との関わりの中で石見銀山を知るきっかけがあり、その魅力に惹かれていきました。

移住するまで石見銀山のことを全く知らなかったため、地域との関わりがなければ、観光ガイドをするとはなかったはずですが、

また「観光ガイドをしていなければ、石見銀山でのたくさんのお会いもなく、淡々とした日々を過ごしていたでしょう」と語ります。

移住者の先輩として、「地域との関わり合いが好きな人」には大田市がおすすめと語ります。

移住者の先輩として

移住してきた当初は不安



▲五十猛町の自宅横の畑で

移住前から畑で野菜を作っており、畑仕事も得意。二人とも釣りも趣味だが、現在は釣りよりも石見銀山の観光ガイドに熱中している。

修美さん・信視さんの選ぶ おすすめ銀山スポット

第1位「龍源寺間歩」

石見銀山のメインスポット
幕府が掘った全長約600mの坑道

第2位「佐毘売山神社」

銀鉾床の上に鎮座している神社
越本さんおすすめのパワースポット

第3位「鉾脈」(龍源寺間歩周辺)

岩盤の隙間に鉾液が通り、冷え固まって鉾脈になる
これを目印に坑夫は銀を採掘していた



▲鉾脈 (坑道から左斜め上にむけて)

もありましたが、海辺の掃除や祭りなどの自治会行事の誘いもあり、地域住民の歓迎がありがたかったそうです。

地域とのコミュニケーションを上手にとることで人生が豊かになります。

親密な人との関わりを求めて大田市へ移住を考えるとみてはいかがでしょうか？

【空き家活用促進事業】

空き家バンクに登録のある空き家の改修費用や残存家財の撤去費用の一部を予算の範囲内で助成。

越本さんの住居も空き家活用促進事業を利用し、家屋の改修を行なっています。

※定住・移住のご相談や助成制度の詳細については下記までお問い合わせください。

【大田市政策企画部

地域振興課定住推進室】

電話：(0854)83-8029

FAX：(0854)82-5885

Email: o-tiiki@iwamigin.jp

「0854-8」

作詞 宮根誠司さん
(大田市出身フリーアナウンサー)

作曲 近藤夏子さん
(大田市出身シンガーソングライター)

0854-8の友よ 元気かい？
グリコの煙突 水たまり 踏んづけた夕陽
0854-8の僕は笑顔かい？
人波にまぎれ ビルの空 ぼやけたお月様

小さな勇氣 探してたルート9
生まれし場所へ続いてく想いは
Oh大好きな町 Oh大好きみんな
しわい仕事 湯けむり花火 明日頑張ろう
Oh大丈夫夢は Oh大丈夫叶う
今も変わらぬ故郷

何かを求めて かけ出したルート9
時は移ろい 懐かしいあの瞬間
Oh大好きな方言 Oh大好きな路地
めげた心 砂時計 すべて流そう
Oh大丈夫きっと Oh大丈夫君なら
縁結んだ故郷

葵い風 さひめ嵐 頑張れと頬を叩く
橙が海に溶けて
“おかえり”と抱きしめる

会いたいなあ～
Oh大好きな方言 Oh大好きな路地
めげた心 砂時計 すべて流そう
Oh大丈夫きっと Oh大丈夫君なら
縁結んだ故郷
今も変わらぬ故郷

0855-6の友よ 元気かい？
カミナリ先生 草笛と寄り道のアイス
0855-6の僕は幸せかい？
青春の終わり 澄まし顔 でも涙唄ポツリ

大田市合併10周年事業！ 愛唱歌が完成しました！

本年10月 大田市は合併10周年！！



▲宮根誠司さん



▲近藤夏子さん

3月21日、「サンレディー大田」で愛唱歌発表！
大田市出身者のフリーアナウンサー・宮根誠司さんの作詞、同じくシンガーソングライター・近藤夏子さんの作曲で完成。大田市の愛唱歌が3月21日、地元で開かれた近藤さんのライブで初披露しました。

任期は3年。今後、大田市の観光大使として、折々に大田の魅力を発信していただくことになりました。

近藤夏子さんに「石見の国のおだ観光大使」に！

耳を傾けていました。今後、市では愛唱歌のCDを制作し、販売を計画しています。多くの皆様に愛され、歌われる愛唱歌となるよう周知浸透を図ってまいります。

愛唱歌は明るいバラード調の曲に、大田の風景や方言を織り交ぜた歌詞をのせた、故郷と故郷を離れた人たちへの応援歌となっています。当日は宮根誠司さんからのビデオメッセージも寄せられ、故郷を思う気持ちと歌詞に秘められた思いに皆耳を傾けていました。

合併10周年のキャッチフレーズは

つながる大田 つなげよう未来へ!!

平成17年10月1日に1市2町（旧大田市、旧温泉津町、旧仁摩町）が合併して誕生した現在の大田市は、本年10月1日、合併10周年を迎えます。

10月3日(土)には大田市民会館で合併10周年の記念式典を開催し、多くの皆様にご参加いただくなかで、この間の10年を振り返りながら、ともに祝い、新たな決意のもと、更なる飛躍へとつなげていきたいと考えています。

合併10周年記念事業の
ロゴマークは
こちら



ロゴマークに
「らとちゃん」を起用

ロゴマークは、大田の豊かな自然を表した緑の力強い筆文字で描かれた10周年の「10」の字の前に、大田市のマスコットキャラクター「らとちゃん」を配したデザインになっています。「10」の「0」は、石見銀山の「間歩」をイメージしてデザインされています。

これから行う記念事業や関連イベントのPRに活用します。

【小学生応援メッセージ最優秀賞】

10才になっても20才になっても
30才になっても100才になっても
ずっといっしょにがんばろう

「大田市と一緒に歩んでいこうとする姿勢が素晴らしい作品」と評価されました。



▲今年度10歳になる小学生を対象に応援メッセージコンテストを実施。最優秀賞に選ばれた大田市立川合小学校の安藤心咲さん

空き家見学会を開催（3月14日）

東京・大阪・広島などから19人が参加

大田市では移住・定住を促進するため、初となる空き家見学会をこのたび開催しました。

空き家バンクに登録のある海辺に近い物件を中心に6件の空き家を見て回りました。

当日は、大田市役所に集まり、1件目の物件までバスで移動。車窓から見下ろす日本海の景色に驚きながら目指しました。

現地では宅地建物取引業協会大田宅建センターの田原さん（㈱コーユー社員）

のギャラリー馬路（仁摩町馬路）へ。

ここは大阪市からインターンし、念願の田舎暮らしを実現した武田さんが営む宿でしませ田舎ツーリズムに登録されています。

昼食をとりながら、参加者は移住者の先輩である武田さんから古民家に暮らす楽しみや苦労話を伺い、情報交換の場面もありました。

昼食後も2件の空き家を見学しました。

空き家見学会を終え、参加者からは「大田市の魅力がよくわかった」、「空き家バンクに新しい空き家が追加されたら連絡が欲しい」などの感想がありました。

今後も空き家見学会ツアーを実施し、空き家見学だけでなく、大田市の魅力を参加者に伝え、移住の促進に努めます。



▲熱心に説明を聞く見学会参加者

から空き家のおすすめポイントや改修の必要な箇所などの説明がありました。

その後、参加者は室内外の状態を確認したり、家中からの景色を眺めたりしました。

その後、2件の空き家を見学し、昼休憩のため、

移住希望者が大田市内のしまね田舎ツーリズムの施設を利用した場合に、田舎体験施設の利用料金を助成します！

「薨のギャラリー馬路」の他、10施設があります。

『田舎体験施設利用促進事業』

○助成対象者：移住希望者が利用した田舎体験施設を運営する者

○助成額：利用料金の1/2以内

1日1人あたり3,000円を限度（同一年度7日以内）

○田舎体験施設を利用されたい場合

- ・施設の利用前に大田市への申請が必要です。
- ・補助額は大田市より施設運営者へ直接支払います。

※利用についての詳細は下記までお問い合わせください。

【大田市政策企画部地域振興課定住推進室】

電話：(0854) 83-8029 FAX：(0854) 82-5885

Email: o-tiiki@iwamigin.jp



▲薨のギャラリー馬路での昼食風景



▲室内の説明の様子

らとちゃん劇場⑦



シリーズ石見銀山③⑩ 「分かりにくい」石見銀山遺跡 — その理由 —

石見銀山遺跡は「分かりにくい」世界遺産と言われており、特徴的な記念物に乏しく、観光客にアピールできるものが少ないことなどが指摘されてきました。

文化財担当者から見て、石見銀山遺跡が「分かりにくい」理由は、“遺跡だから”というところにその根源があるように感じます。

遺跡とはそもそも「分かりにくい」のです。何か重要な遺物や生活の痕跡があったとしても、土が1cmでもかぶってしまえばそれは見えなくなり、木が生えて森になってしまえば、元の様子をうかがい知ることは非常に難しくなります。

分からなくなってしまった遺跡の実態を明らかにするためには、考古学的な調査を実施する必要があります。考古学的調査には①現地を歩いてどこにどんな痕跡が残っているかを確認する**分布調査**、②範囲を限定して地面の掘り下げを行なう**試掘調査**、③まとまった範囲を対象としての本格的な**発掘調査**、の3段階があり、これらを適切に実施していくことで、土の中に埋もれてしまった情報を明らかにしていくことができます。(逆にいうと、考古学的調査をしない限り、そこがどんな遺跡であるかは分からないままなのです。)

石見銀山遺跡の発掘調査は昭和58(1983)年から継続して実施されていますが、非常に広い遺跡であるため、世界遺産に登録されている範囲のほとんどが未調査のままです。ですから、「分かりにくい」のは仕方ないかもしれません。そうは言っても、調査をしなければいつまで経ってもそのままですから、どこまでが明らかとなっているのか、次は何を明らかにしようかなどと考え、計画を立てて調査を進めています。今年度も3か所で発掘調査を計画しています。石見銀山遺跡の全貌が明らかとなるよう、これからもずっと調査を行うこととなります。



▲昆布山谷の発掘調査風景（平成26年11月19日撮影）



ボクが住んでいる
「空に近い町」
富山町です。

棚田のまち富山に 地域おこし協力隊 竹内隊員が着任

地域の元気をサポートします

4月から富山町に地域おこし協力隊員が着任。町の活性化に向けた取り組みのサポートをしています。

住んでいてよかった ——の声が聴きたい

地域おこし協力隊
竹内恒治隊員

眼下に広がる棚田を見て、すぐに「この町に住んでみたい」と思いました。

まだわからないことだらけですが、いつの間にかいることが当たり前になるくらいに、この町に馴染めたらいいなと思っています。

私の仕事は、富山町の皆さんの「アレをしてみたい」という声を実現するお手伝いをする事です。

そして、皆さんから「富山に住んでいてよかった」という声が聴けるよう活動していきたいと思っています——人を呼び込むことだけでなく、ここに住んでいる人々が楽しく過ごせることが大事だと考えているからです。

地域活性化について様々なご意見、ご要望があるかと思っています。ぜひ、お話を聞かせてください。未熟者ですが一生懸命、取り組みたいと考えています。皆さんよろしく願います。

協力隊員のブログは市の定住サイト「どがどが」から、フェイスブックは市の公式ホームページからも閲覧できます。

大田市は、4月から市内初の地域おこし協力隊員として、県外の若者二人を採用しました。現在、一人は市観光協会、もう一人は富山町に配し、活性化に向けた地域の取り組みのお手伝いをしています。

その一人、富山町の協力隊員として着任したのが、愛媛県今治市出身の竹内恒治隊員(33)。富山まちづくりセンターを拠点に、地域おこし

今、富山ではこれらの特産品のブランド化に取り組んでいます。そして、これを支援してもらおう協力隊員を迎えるにあたり、富山町の15の団体で「地域おこし

富山に住みはじめて約2か月、今ではすっかり地域に溶け込んでいます。「近所からおかずのお裾分けがあったり、畑作りの指導を受けたたり、地域の人から気軽に声をかけてもらえるようになりました」とうれしそうに話しています。

隊員の任期は1年。最長3年まで更新できます。市では、任期終了後もこの町で定住してもらいたいと考えています。

みんな待っとなるでな～
夏祭りも多数開催！

おおだ 情報BOX

天領さん（夏祭り）

- ★大田会場 8月2日(日)
・大田市民会館メイン会場
天領踊りなど
 - ★久手会場 8月4日(火)
・久手港
過去最大の1万発の花火を打ち
上げ予定
 - ★大森会場 8月30日(日)
・大森の町並み
- 【問】大田市役所産業企画課
☎0854-83-8072

仁摩ごいせ祭り

- 7月18日(土)
- ・仁摩サンドミュージアム周辺
観覧場所から約100mで打ち上
げられる迫力満点の花火大会。各
種ステージイベントや屋台もあり
ます。
- 【問】ごいせ祭り実行委員会
☎0854-88-2513

2015三瓶高クロスカントリー大会

- 8月23日(日)
- 参加料
- ★クロスカントリー（2km、3km、5km、8km）
一般：3,000円/高校生以下1,000円
 - ★ウォークラン
無料 ※ウォークランは完走を目的とし、タイムはとりません。
- 申込期限：7月10日(金)（ウォークランは8月5日(水)まで）
- 【問】三瓶高原クロスカントリー大会事務局（大田市教育委員会内）
☎0854-82-1600（内線：1364）

島根県立農林大学校（大田市）を会場に！

ご縁の国しまね就農相談バスツアー

島根で合同就農相談会開催！ 東京・大阪からバスでGO!!
現地では施設見学や農業体験、先輩農業者との意見交換なども。

日 程

東京発：7月31日(金)～8月4日(火)

大阪発：8月1日(土)～8月3日(月)

参加費：12,000円（交通費、宿泊費、8/1の昼食・交流会費、8/2の朝食含む）

募集定員：40人

【問】島根県農業経営課 担い手育成第2グループ

☎0852-22-5394

温泉津温泉夏祭り

- 8月8日(土)
- ・温泉津港周辺
花火大会の他、各種ステージイ
ベントや食フェス「温泉津グルメ
横丁」も開催。
- 【問】銀の道商工会
☎050-3784-0955

祖式こどもフェスタ（夏祭り）

- 7月下旬予定
- ・祖式でこどもフェスタ開催！
親子揃っての参加お待ちしております。
- 【問】祖式まちづくりセンター
☎0854-85-2362

キャンドルナイト in 波根海岸

- 7月25日(土)
- ・波根海岸
キャンドルに浮かぶ波根海岸。
波の音を聞きながら幻想的な夜を
お楽しみください。
- 【問】波根まちづくりセンター
☎0854-85-8625



▲キャンドルナイト in 波根海岸の様子

琴ヶ浜盆踊り

- 8月13日(木)～15日(土)
- 3日間とも20時30分～
- ・琴ヶ浜（仁摩町）
太鼓の音と口説きが夜空に響
き、鳴り砂で有名な琴ヶ浜海岸を
会場に優美な盆踊りが行われます。
- 【問】馬路まちづくりセンター
☎0854-88-9070

ふるさととは今

田植え体験で三瓶を満喫

—三瓶町池田



三瓶山の裾野の三瓶町池田で、田植えを体験する「三瓶米づくり体験ツアー」が5月16日に行われました。

このツアーは、女性グループを中心に地元有志で組織した実行委員会（藤原章子代表）が企画、運営したイベント。

当日は小雨交じりのあいにくの天気でしたが、広島市や松江市など県内外から家族連れ44人が参加。地元女性がふんした早乙女から指導を受けながら、13㍍の水田に稲の苗を植えました。

また、水田のあぜ道からは小屋原田植えほやし囃子保存会のメンバーのほか、池田小学校の児童や池田保育園の園児らが、伝



統の田植えばやしを披露しました。

参加者の一人は「おはやしがあると田植えがはかどります」と田植えが苦にならないと話しながらも「今年は霧がすごくたちこめて三瓶山を見ることができないのが残念」と苦笑されていました。

約1時間の田植えを終えた後は、三瓶放牧牛と旬のタケノコ入りの特製ハヤシライスで昼食。また、地元の山野草料理やコンニャクの刺身、漬物のほか、三瓶放牧牛の塊をあぶってスライスした野性味ある料理などがテーブルに並び、参加者らは三瓶の味覚を堪能しました。

このツアーは今回で5回目。なお、9月には今回植えた稲を刈り取る「稲刈り体験ツアー」が行われます。

おおだ空き家情報

平成27年6月5日現在

Uターン、Iターンなど定住についてのご相談や空き家情報についてのお問い合わせは、『おおだ定住支援センター』までお願いします。

空き家物件の現地案内もします（物件所有者との調整が必要ですので、必ず事前の連絡をお願いします。）

今回掲載されていない物件もあります。詳しくはお問い合わせください。なお、空き家情報は“おおだ”定住サイト『どがどが』でご覧いただくことができます。

おおだ定住支援センター〈大田市役所地域振興課内 ☎0854-83-8029〉にご相談ください。



朝山町 売買980万円

海岸沿いの高台に位置する築15年の物件。部屋から眼下に日本海を一望できます。

※家財撤去及び清掃は購入者負担



三瓶町池田 売買490万円

国立公園三瓶山の麓に位置する周囲の広々とした建物です。近年水周りの改修工事を行なっています。



仁摩町馬路 賃貸月4万円

鳴り砂で有名な馬路地区のJR馬路駅元官舎で駅構内に隣接した建物です。鉄道を利用される方には便利です。

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行／大田市役所政策企画部地域振興課定住推進室 TEL:0854-83-8029 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail: o-tiiki@iwamigin.jp <http://www.city.ohda.lg.jp/>

“おおだ”の定住サイト「どがどが」 <http://www.teiju-ohda.jp/>

どがどが 検索